六月十日夕刊

常磐毎日新聞

日曜祭日の翌日休刊

定價一部金貳拾錢一ケ月金五拾錢郵税五厘
廣告料五號一字詰一行金五拾錢
發行兼編輯人印刷人　竹崎文治
福島縣石城郡平町長橋町二五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六二〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

或る日の初戀

平田志男

（二）

「ありあ、英語の時間にしくじりやがつたんでエ……。それから變に成つてしまうた」

いゝやんばいに言つて仕舞つた、てんで辻褄が合つてない、然し女には何か話して呉れゝばそれでいひかも知れないのだ。彼女の父は官吏で一人ッ娘が島子だつた。

「家へ――今晩來ない？母さんが買物に出るから夕飯を食べたらね――來られる？」

「遊びに？　いく……ん」

惱ましい。しとやかに腰を折つて微笑んだ。島ちやんが去つたのか、まだ居るのか一寸判斷がつかない、それに足が矢鱈に輕くなつてもう幾ら走つてもイキが切れぬ。

ジリジリして夕めしが何時もより遲いような氣がした。事實遲かつた。めしを飲んだのか、地を駈けたのか解らず、島ちやんの蚊帳を釣つてるのを見た時にはヒドク横つ腹が痛いが、それでも他人事のように思へた。鈴のように上る事を促した島ちやんは、同い年の十六で靜かだ。

彼は逃走準備で下駄を裏へ廻した。椽側からお庭が明るく見えた、唯明るく見えただけで、そこから出られることは知つて居た。上ると必然に蚊帳の中へ這入ることに成つてゐる、それで蚊帳をめくると島ちやんの顏が敷布のように白く見える。

誰も居ない、女は斯んな時大膽になるものである。全く二人ッきりで敷布の中に浮いてるやうだ。

「まだ歸つて來るに間があるんか？」

「えゝ、御進物を買ひに行つたんもん」

憎しいのだか愉快なのかそれも解らない、夢中では無し、からみ着いた、そして一刻の過去も霧のやうにぼやけてしまつた。

女は斯んな時大膽に成るものである。彼女は軟くずり寄つて來る――。然しその感觸は彼を動かせなかつた。

「どうしちやつたん？」

「――――」

彼女も鼻の上に眉をあつめた。蚊帳は夜風に吹き流され居る。恐怖心が遂に爆發した、誰か來たのだ。母親かも知れない。彼女が何を言つたのか……。かやをまくつて庭へ一足飛びに飛んだ。すると庭からすさまじい音響を震はせた。と庭から轉げ落ちた、下駄を掴んだのと駈け出したのが同時である。

いゝ月夜だ。胸にしみ出た汗が肌寒く感じる、椽側をやけに叩き付けたので脛の邊がズギ〳〵痛い。山脈に濃い雲が又がつてる。外に雲も無く、月が烟むたい程光つてる。その月が行く時も有つたらうに、朴齒が道にふるへた。

完

ノート

毛織物は新しい新聞紙で二重か三重に包んで藏ふと虫がつかない。

「子どもが出來たらどうしよう」

これが囁きである。だが菅井の總べてが岩石で打ち碎かれてしまつた。もうからみ着かず、或ものを超越した恐怖心が山盛で、長い沈默になつた。

―明日の献立―

【朝】佃煮―はぜ
【晝】黑ごまあへ―さやえんげん
【晩】鯨汁―鯨作り肉　笹打ごぼう　胡椒

地家人相
百相事般
鑑定

平町堂ノ前一番地
高島易斷所
野澤定象

十一日戊申三碧大安滿る
【一白】我が望事の達する日萬事進んで吉名譽給料揚る【二黑】取引、金談、緣談の件を含む日なれど金談は不調たる可し【三碧】病氣、移轉怪我等の心配の起る凶日【四綠】金錢取引で目上と不和を生じ親戚か知人の世話になる事あり【五黃】金は手に入り貰ひ物はあり長男長女の喜悅あり【六白】病氣、怪我、紛失、盜難の憂ひあり山林田畑の心配も起る【七赤】火災、眼病、離別、死別の心配ある婦人に注意【八白】望事は總て失ふ水難火災に注意【九紫】氣斗り焦せり物事遲延す病氣怪我注意【米】持合後塲安し【株】高し

平町二丁目
三井タクシー
電話六八五番

恐ろしい疫痢の流行期!!
◎毎年六月始めより十月と申します
◎死亡率統計百人中六十五人以上こして居ます
まづ豫防に經口免疫の
北里研究所製造疫痢内服ワクチンを
價格　幼兒一人分三十錢　大人一人分五十錢
（文獻進呈）
特約店　西村屋藥局
平町二丁目　電三

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
製造販賣
菓子壜
硝子食器
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町（電話一四二番）
◇支工塲　仙臺市榮町（電話五九七番）

鹽豚（コーン・ポーク）
肉蒲鉾（ソーセージ）
田町　三二三屋

外科
專門
X光線科
上田外科病院
平町南町
電話一二九番

磐城共濟病院
電話（六四一一二四番）
院長　石山謙郎
醫學博士
醫局員　佐久間粹
副院長　有馬勇二郎
醫學士
醫學博士　近日着任
技術員　有馬勇二
技術員　石山謙郎
技術員　工藤慶造
藥局長　高後利雄
藥劑師　吉本孝平
助手　石山實
事務長　鈴木雄彦
內科
小兒科
皮膚性病科
外科
產婦人科
耳鼻咽喉科
X光線科
物療科
衛生試驗所
藥局

夏の學生服
野も山も新綠です……
輕快な霜降洋服が澤山揃ひました
どうぞ御用意下さい。
小學生用……¥.40ヨリ
同（特製品）……¥1.20ヨリ
中學生用……¥2.05ヨリ
あかや洋服店　平電三203

重要道路

改修の恩人 小林所長に 感謝の建碑

箕輪村成澤地内に

石城郡三坂村より箕輪村に通ずる三坂街道は濱通りより中通りに至る重要道路であるが今まで散々荒れ放題にして顧みられなかつたのを小林平土木監督所長新任以來改修の必要を力説し地元村を鞭韃した結果箕輪村字成澤の大和田粂雄氏が村民と共に改修期成同盟會を組織して運動を起し翌年工費五千餘圓、人夫二千餘名を使役して完全な自動車道路を竣功せしめ以來附近三坂、澤渡、好間各村の産業開發に非常な利便を與へつゝあるので前記同盟會では改修事業の恩人たる小林所長への感謝を記念すべく同村字成澤地内改修道路に記念碑を建設する事になり既に碑の完成を見るに至つた

勿來の繭市場は 取引二割增豫想

十七、八日頃に開場

石城郡勿來錦方面の春蠶は目下上簇期を控へて居るが勿來繭市場は來る十七、八日頃より開場すべく準備中である同市場は出廻期に於いて八千貫の取引を豫想され取引額も昨年の二割增を來すであらうと

鮫川改修の取水口 更らに上流へ變更

工事は八月中旬頃から

石城郡錦村地内縣營鮫川改修工事は目下係員が實地測量中であるがその取入口は最初上遠野村更替地内舊取入口下流に設置する豫定の處調査の結果同所の河底改修及びダム裝置は莫大の經費を要するので新らたに同所より百間上流にある自然流水を利用する事に決定した、工事は八月中旬頃より着工する豫定であると

加工補助申請

石城郡小名濱農産加工組合では副業としての罐詰漬物類の副業事業擴張を計る爲め今回縣を經て農林省に七百四十一圓の補助を申請した

磐女對第一の籠球

磐女對平第一小學校兒童のバスケットボール試合は本日午後二時より磐女校庭に於て行つた

農繁期託兒

小名濱町で

石城郡小名濱町愛國婦人會支部では來る十一日より廿五日迄同町定西地内心光寺に於て農繁期の託兒所を開設すると

事故防止の徹底

工場の安全週間に

平警察署では來月一日より七日迄全國一齊に催される第六回安全週間中管内各工場主と協力して事故防止の徹底を期する爲め安全週間趣意書及びポスター、ビラ等を配布する外火災及び非常時に於ける避難演習の實施奬勵に努める事になつた

教員野球の 參加校メンバー

既報來る七月九日平第一第三及び平商各グランドに於て開催される郡下各小學校教員野球大會出場各學校のメンバーは左の如くで組合せは今月下旬キャプテン會議を開き決定するが昨年の優勝は勿來校、平第一は決勝戰で十四對七のスコアーにて惜しくも敗れたのであつたと

一第　上田政正藤竹菊川野
平　井横松松佐水根古丹本本本
二第　野邊手田谷本原本野
平　海渡玉吉熊松野橋草
倉　藤野羽藤木野地原
四　森伊菅出佐青片引麻
濱之　元邊野柔花田山邊本
久　秋渡水千榮藤西渡坂野島笠藤田倉田木豊田
遠上　七折佐櫛三吉高佐柴藤藤
郷野澤　山本田野子藤和
内　小菅浦松大菅田佐島
本　山林部山崎田島野口
湯　秋小岡横山横安小關
二井　崎村田子倍本田目本
赤山　山中岡金安松吉班松
　　松崎本賀村木開藤羽
入　小松山志戸鈴新佐福
間　木川井藤村本井山藤
好　鈴吉增加木松室中伊
來　本野澤木章郷木松尻木
勿　橋菅小鈴鈴本高若江

副業講習

小名濱にて

石城郡農會では縣と協力して各町村の副業奬勵の爲め今秋十月廿日より十一月一日迄小名濱農産加工組合で講習會を開く事になつたが講師は農林省の武原數代氏である

愈よ磐陽野球始まる

けふ磐中對磐炭を最初に

既報磐陽野球の第一回戰磐中對磐炭の試合は本日午後二時より磐中グランドに於て行れたが明日は午前九時より同處に於て遞友對平倶樂部平商グランドに於て平商對古川午後二時より磐中グランドに於て鐵道對入山の各試合が行れると

港灣改良 竣工招待

石城郡小名濱町では七年度匡救事業の港灣改良工事は工費三萬餘圓を以つて去る三月竣功したので來る十四日午後三時より同町料亭新米に關係者を招待すると

匡救事業

打合會變更

平土木監督所にては管内八年度匡救事業打合の爲め十三日平町團體事務所に平町外十五ヶ町村の土木主任會を開く豫定であつたが事務の都合上十五日午前十時に變更したと

平町人事

回出生
△鎌田五三　當時東京市向島區吾嬬町三ノ三七胡脇長次郎氏二男清

回婚姻
△田町五八秋山秀男氏（三四）石城郡澤渡村字堀ノ内小野勝氏（二九）

回死亡
△堂の前一六　須賀井一郎（四ッ）

選擧戰……初陣物語（四）

川崎文治

◇獨り氣を揉んで居る眞ッ最中、町内の外での觀測は『川崎危し』との事で、甚しいのは落選組の一人に數へて仕舞つて居る氣早者もある、夫れといふのは町内の裏面に現れた事實のみに依つて町内の結束が亂れて居ると見た結果らしい、其處で事務所へ『どうしたものか』と相談を持ち込めば口をゾックリ揃へて『町内の方は大丈夫保證する、寧ろ町内の外の方をシッカリ頼みます』といふ。

◇實は町内の方は事務所に一任したが、町内の外は事務所の人の顏以外一切自分自身の手で處理した、一本の推薦狀、一本の依頼狀を出すにしても全然事務所の手を經ずに自分獨りで此の事に當り、自分の支者を玉手箱中のものとして極秘に附した。

◇然も僕の最も信頼する大きな手筋の後援が着々潜航的に動き出して居る、町内外の情勢から見て、どうあつても當選圈内に入らねばならぬ勘定となつた、とは云ふものゝ前にも述べた通り、自分自身を顧みれば『ない〳〵盡し』の候補者である、其上に敵の追擊急と聞いては心中全く穩やかでない。

◇當るも八卦、當らぬも八卦、家内の者達も僕以上に氣を揉み出して『易斷』を受けたから夫れを見ろと、出された卦紙には『澤水困』とある、何んでも此の説明書に依ると、澤の水が洩れて終つて草木が枯れるといふ、實に運氣に乏しく心細い譯なのであるさうだ、

◇更らに算木の裏卦には手足も皆んなもぎ取られて仕舞ふ、といふのだから堪らない、而し一時は夫等の一大故障が生ずるが大いに奮闘の結果は、故障も遂に解消して必らず希望に達するのだとある。

◇斯ふなれば滿更ら此の『易斷』も捨てたものではない。イヤ『奮闘努力』にしくはなし、起つた以上は負けては居られぬ、一敗地に塗れたとあつては、世間に對する面目がない『敗軍の將戰を語らず』なんて凉しくなれる僕の氣象ではない。事務所には誰れが張つたのか、仁丹附錄の東郷大將筆『皇國の興廢此一戰……』が四邊を睥睨して居る。

『時』の日

各學校の催し

けふ十日の時の記念日に際し磐中、平商、磐女にては講演會を開き

平第一校 では兒童の家庭に於ける時計の有無調査を爲したが流石に時計の無い家庭は一軒もなく學校迄の所要時間は左の如く測定した由

鎌田橋二十八分三十秒　尼子橋十一分　マルトモ十五分　役場七分　片倉製糸二十三分　停車場十二分　磐女十三分　校長宅十分　北目町十八分

平第二校 では時計及びポスター展覽會を催したが陳列された時計は百年前に平城で使用した時計を始め明治初年の物、標準時計電氣時計、カレンダー時計分飛時計等珍しい物ばかり五十餘種に達した因にポスターの入賞兒童は左の如くである

△金賞　一ノ三佐々木マサ子　二ノ二河田シヅカ　三ノ三端山厚子　四ノ一五十嵐シノブ　五ノ三佐川周子　六ノ一後藤京子　高一ノ三小谷テル子　同二ノ三綿引美世子

△銀賞（一年）齊藤カヨ子　永山智子　佐々木マサ子　黒木雅子（二年）太田ハル　河田シヅカ　中野靜子　鈴木千代（三年）高橋喜代子　和田久子　端山厚子　白土アイ子（四年）五十嵐シノブ　關内マヌ子　古川トキ子　元吉八重（五年）鳥海珠　鈴木龜代　佐川周子（六年）後藤京子　赤坂和子　高階翠（高一）海老根悅子　吉田孝子　小谷テル子（高二）難波ツネ　藁谷タイ子　綿引美世子　△赤賞（一年）片寄幸子　馬目シゲ子　桑田ヤス子　草野トシ子（二年）田卷隆子　菅野榮子　堀久榮子　白土ミイ子（三年）五十嵐澄子　柴田離苦子　長瀨多美　有賀貞子（四年）木村愛子　大島キミ子　坂本勝子　鯨岡久（五年）齊藤ユキ　關内義子　端山多賀子（六年）鯨岡富美子　小泉私子（高一）井上國子　永山三代子　吉村ツネ子（高二）吉田コウ　尼野トミ　高木セツ子

時間勵行者二名

けふ縣から表彰

御代高木誠一、好間村大字北好間字籬二四の一號稻葉廣吉の兩氏は多年時間の勵行を嚴守し生活改善の一端を圖つたので本日の時の記念日をトして縣社會課より表彰された　石城郡草野村大字北神谷字

縣下教育出席 平町各小學校長を初め第一坂内水竹、第三新家の各訓導は本日より二日間若松市に於て開れる縣下教育總集會に出席した

矢野氏慰勞宴 平商業學校野球部では去る七日より法政大學現三壘手矢野氏を迎へコーチを受けて居たが來る十二日歸京するので明日午後七時よりマルトモホールに於て慰勞晩餐會を催すと

衝突船示談

百圓の賠償

去る三日石城郡豊間沖合に出演中小名濱町比佐キク所有船第一明神丸が誤つて江名町漁船聖德丸に衝突難波させた問題は其後聖德丸が船體修理中であるが再三兩船主間で交渉の結果明神丸船主から百圓の賠償金を贈り示談が成立した

お三夜様の堂宇が信徒の熱意に輝く

平町の一點景を更らに美化せよ

南町の『お三夜様』はあらゆる意味に於いて平町の人々から親し味の焦点となつて居る、毎月の縁日には近郷近在からまで

▽參詣者　が詰め掛けて足を踏まれる雜踏に微笑しい一点景として今では平町から切り離す事が出來なくなつた、縁日の宵暗迫る頃元の磐越銀行の通りに立つて行き交ふ人の群れを見れば其處には近代平町の縮圖があるそれにしても『我等のお三夜様』の堂宇の見すぼらしさよ！

▽信仰者　が躍起となつて騷ぎ立てるのも無理がない、管理者の菩提院住職桐原純榮氏も、信仰者の切なる願ひを其儘に聞き流す譯には行かなかつた、最近

▽木の香　新らしい堂宇の材料が境内に積まれて石城郡高久村大字下高久字前の内百二十七番地前科三犯農鈴木房吉（四三）は過般來平檢事局に召喚され三堀檢事の

取調べを 受けて居たが本日私文書僞造行使、公正證書原本不實記載行使罪既に棟上式も濟んだとの事しかし出來る事なら一本の柱、一枚の瓦にも人々の熱意を更らにこめて、その堂宇の立派さに輝きを增さしめ度い、桐原住職は毎日の樣に

▽信徒間　を駈け廻つて喜捨を求めて居る、堂宇の最善の改築に依つて『我等のお三夜様』の意義を一層明確ならしめたい！

郵便局を騙し登記所を胡摩化す

親父を喰ひ潰す不孝者

けふ起訴さる

として起訴された事件の内容は被告房吉は實父太吉の郵便

貯金通帳 を盜み自分名義にて其貯金の拂戻を受けんとしたが郵便局から拒絶され去る二月十三日自宅に於て父の實印を盜み拂戻金受領書に被告の妻ツルに千五百圓の拂戻方委任する旨を記載した

文書一通 を僞造し平郵便局より拂戻しを受けた外同村田仲久左衛門に對する債權二百五十圓の證書を父の文箱から窃取し數回に亘り取立て父名義の署名捺印ある金錢受領證書及び委任狀を僞造し田仲に交附し平區裁判所に抵當抹消の申請を爲さしめ

登記官吏 を欺き登記簿原本に不實の記載をしたのであると

平職業紹介所報告

回　人を求める方

△雜夫　二十三才　月十圓　外面談（相馬郡某）

△女中　三十以下　月五六圓　委細面談（四倉町某）

△農夫　四十以下　月十五圓　位外面談（高久村某）

△靴工見習　十六才　尋卒　仕着小遣（平町某）

回　職を求める方

△鐵工見習　十六才　高卒　給料面談（平窪村某）

△文撰工　二十一才　高卒　給料面談（平町某）

△看護婦見習　二十一才　高女卒　給料面談（平町某）

△女事務員　二十五才　高女卒　給料面談（平町某

JOAK 明日のラヂオ

仙台放送局　十一日

天氣豫報

今晩も明日も南西の風晴曇半す

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間 お話「日本式ローマ字」福永恭助

▼後七、三〇 國際經濟會議特別講座（八）「海運問題に就て」黒川新太郎

▼後八、〇〇 舞臺劇「子を取ろ子取ろ」明治座より中繼　中村吉右衛門一座

▼後八、五〇 講談名人傳終席「圓山應擧」大島白鶴

▼後九、三〇 時報　ニュース　氣象通報　番組豫告

明日の部

▼前九、三〇 子供のオーケストラ　川南兒童オーケストラ

▼前一〇、〇〇 宗教講話 竹田穎川

▼前一〇、三〇 講演 石原醜男

▼一一、〇〇 圍碁講座 瀧越憲作

▼後〇、〇五 滿洲より

▼後一、二〇 現代音樂鳥瞰「第一回アメリカ現代音樂」コロナオーケストラ其他

▼後二、〇〇 謠曲「放下僧」遠藤喜作

▼後二、二〇 陸上競技實況（第二回）學生對一般陸上競技—神宮トラックより中繼

▼後六、〇〇 子供の時間 童話「劇雨の日」大阪なでしこ會

▼後六、二五 時事講座「國際條約と小國」町田梓樓

▼後七、三〇 座談會「國際經濟會議を前にして」高野岩三郎其他

▼後八、二〇 ラヂオレヴユウ「江戸ッ子金さん」榎本健一一座

▼後九、〇〇 長唄「喜三の庭」時千代　りん子其他

豪快剣法

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第三百六十一席　物外と近藤勇

坊主を相手に勝負

山崎烝は物外の爲に棒を打ち落とされてその手練に驚いたが、そこは新撰組の頭分とて卑怯な事はいたさぬ

山『參つた、イヤ坊主偉い』

と賞めた時に先刻より此の試合を見て居つた近藤勇は武者溜りを下りてそれへ進み出て

勇『御出家美事なる手練感服いたした、この上は拙者がお相手を致す』

物『イヤもうこれでゆるして下さい、見られる通りわしは僧侶佛に仕へる者が殺伐なことを致すはほとけにすまぬ、しかしたつて試合を望まれた故相手も致したれど、もう此の邊で勘辨して下さい』

勇『イヤ出家には似合はしからざる精妙なる技、依つて拙者がお相手をいたす』

物『左樣かな、それでは今一度試合致すであらう』

勇『ついては試合を致す前にお斷り申して置くが拙者の得物は體にふれると血の出る物であるが宜しいか』

物『ハヽヽ其れは變つた得物だな、木劍ならば此の坊主頭にふれればとてこぶがでであらう、また穴もあくであらう、然し面白いな、たんぼ付の稽古槍やまた木劍竹刀にては乘氣がいたさぬ間違へば大切な生命を失ふ武器にむかつての立合は力が入る、望みにまかせ勝負いたすであらう』

と云つたが更に恐れる樣子もない、近藤は此の槍を見せたならば此坊主は驚いて不禮を謝して逃げるであらうと思つたがそんな樣子は少しもない

勇『支度いたせ』

物『イヤ出來るに止まりまた竹刀ならば唯痛みを感ずるのみ何方にしても血を流す樣なことはあるまい、然るに貴公が持たれる其の得物にふれると血が出るとは一體どんな物を持ちなさる』

勇『これである』

となげしにかけたる二間三尺青貝え笹穂の槍を取りサラリと鞘をはづして物外の前へズバリと突き付け

勇『これだ、受け損ずると穴があくぞ』

物『成程それでは血も出る支度は出來て居る』

勇『唯今山崎と立合ひし時に用ひた其の扇子形の得物にてこれに向ふか』

物『そうだの、これが手なれて居るがピカ〳〵光る槍の前では此の得物では配合がよくない、他の物を用ひることにする』

勇『心に叶ふたる物は何なりとも持て、佛には彌陀の利劍ありと聞く依つて短刀なりまた木刀なりとも持つて相手いたせ』

物『イヤそんな物は携へては居らぬ、これが好からうか』

と今迄持つてゐた木製の扇を腰にさし向ふに置いた頭陀袋を持つて來て其の内から取り出したは朱塗のわん二ッ

物『これで相手をする』

近藤も呆れました、今まで度々試合をしたこともあるがわんをもつて勝負をするは此の坊主ばかり、ワンたる事だらうと云つたさうです。此の道場に居つた新撰組のものは傍若無人な僧の態度に氣をのまれてしづまり返へて水を打つた樣時に近藤勇は此の槍をしごいたがバツ〳〵と手の中から電火がほとばしるが如く、やがてピタリと中段にかまへた、物外は兩の手にわんの絲底を持つて左を前にし右を脇腹にあてエイと氣合をかけてヂツと敵をにらんだ、近藤は此坊主を一槍の下に突きふせてくれやうとこれまた物外をにらんだがさても不思議槍をくり出すことが出來ない、それは物外の身にいさゝかのすきの無きため暫く互ににらみ合つて居たがやがて物外は左に持つて居たわんをスツと頭の上へあげた、これはすきを見せたから突けと云はぬばかり、これを見て近藤がエイッと叫んでサッと繰り出した槍、アハヤ物外の胸元を貫いたかと見えたがヒラリと身を轉じた物外右に持つてゐた椀にてポーンと槍を拂ひ上げ同時に左に持つてゐた椀にてピシッと千段を打つた、一旦拂ひ上げて置いて今度は打ち下した、これが爲めに近藤はボロリと槍をおとした其時に物外は右に持つてゐた椀をポーンと投げたがそれが近藤の目と鼻とにピタリついてしまつた

梅毒　花柳病

淋病
皮膚病
婦人病
十二指腸虫病

専門

松村胃腸病院　性病科

平南町電話一〇一七

一冊の代金で御希望通りな五冊の雜誌が自由に讀めるる

川崎巡回文庫

電六三〇番

申込次第（規則書進呈）

小兒科。外科

特ニ乳幼兒ノ康健相談ニ應ズ。

滯留隨意　平町　ねずみ坂

渡邊醫院

電話一六一番

男女安全豫防藥

新發賣　志のぶ錠

しのぶ錠は花柳病の豫防藥たるのみならず〇〇〇〇の外コシケ、子宮、内膜炎、膣加答兒並に婦人〇部の癈痒等の治療の目的に用ひられる事で即ち〇〇の豫防と治療の二重奏をなします

專賣所　阿康藥舗

平古鍛冶町（電話四四番）

妊娠を望む方は使用すべからず

吸入用酸素　純度99%

度量衡

モノサシ
マス
ハカリ

計量器

体温器
寒暖計

◎秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

開内藥局

電話四〇番

◇寫眞材料一式販賣致シマス

中村齒科醫院

平町鍛冶町七